

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2021年11月12日

【四半期会計期間】 第22期第2四半期(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)

【会社名】 株式会社イノベーション

【英訳名】 Innovation Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 CEO 兼 COO 富田 直人

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区渋谷三丁目10番13号

【電話番号】 03 - 5766 - 3800 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 CFO 山崎 浩史

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区渋谷三丁目10番13号

【電話番号】 03 - 5766 - 3800 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 CFO 山崎 浩史

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第21期 第2四半期 連結累計期間	第22期 第2四半期 連結累計期間	第21期
会計期間		自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	自 2020年4月1日 至 2021年3月31日
売上高	(千円)	1,361,621	1,961,870	3,083,540
経常利益	(千円)	184,510	300,490	522,906
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益	(千円)	120,426	147,777	293,358
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	120,426	176,979	303,463
純資産額	(千円)	2,013,806	2,729,403	2,531,388
総資産額	(千円)	2,529,837	3,318,143	3,137,097
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	60.33	62.95	135.27
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	59.50	62.50	133.83
自己資本比率	(%)	79.5	80.9	80.1
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	256,449	247,930	422,789
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	33,077	122,577	349,173
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	924,236		1,246,984
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	1,813,626	2,123,134	1,997,781

回次		第21期 第2四半期 連結会計期間	第22期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2020年7月1日 至 2020年9月30日	自 2021年7月1日 至 2021年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	28.38	39.54

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 当社は、株式給付信託(J-ESOP)を導入しております。本制度の導入に伴い、当該信託口が保有する当社株式を1株当たり四半期(当期)純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。
3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループにおいて営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

なお、第1四半期連結会計期間において、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等） セグメント情報」の「2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い国内外経済に深刻な影響が長期間に及ぶとの懸念が高まっており、先行きは不透明な状況にあります。

このような環境のもと、当社グループは、創業以来培ってきた営業、マーケティング、そしてテクノロジーのノウハウを活用して、「法人営業の新しいスタイルを創造する」事業の拡大に取り組んでまいりました。当第2四半期連結累計期間の売上高は、営業を中心とした人材採用の強化と費用対効果の高い集客施策の実施に加え、新型コロナウイルス感染症拡大への対応のため、テレワーク関連カテゴリを中心に掲載製品数の増加に伴い資料請求数が増加したことから、オンラインメディア事業を中心に拡大基調で推移いたしました。また、前連結会計年度より連結子会社となりました株式会社Innovation IFA Consultingが提供する金融プラットフォーム事業においても売上に寄与し始めてきたことにより、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は1,961,870千円（前年同期比44.1%増）、営業利益は300,859千円（前年同期比63.2%増）、経常利益は300,490千円（前年同期比62.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は147,777千円（前年同期比22.7%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間の報告セグメント別の業績の詳細は、次のとおりであります。

なお、前連結会計年度より新たに連結子会社となった株式会社Innovation IFA Consultingが提供しております金融プラットフォーム事業は「その他」の事業区分としておりましたが、重要性が増したため第1四半期連結会計期間より独立表記しております。前連結会計年度より新たに連結子会社となったため、前年同期比較情報はありません。

(オンラインメディア事業)

オンラインメディア事業の主力である「ITトレンド」におきましては、当第2四半期連結累計期間の来訪者数（延べ人数）8,643,386人（前年同期比6.72%増）となりました。また、掲載製品数が2,085製品（前年同期は1,653製品）と前年同期に比べ26.1%資料請求数が増加したこと及び、ITトレンドEXPOが計画通り進捗したこと等により、オンラインメディア事業の売上高は1,374,196千円（前年同期比21.3%増）、セグメント利益は480,905千円（前年同期比16.5%増）となりました。

(ITソリューション事業)

ITソリューション事業の主力製品である「List Finder」におきましては、当第2四半期連結会計期間のアカウント数は455件（前年同期比0.2%減）となったものの、アカウント当たりの単価は上昇したことから、ITソリューション事業の売上高は237,272千円（前年同期比3.7%増）となりました。利益面におきましては、コクリポウェビナーのユーザーインターフェース機能改善開発等の結果、セグメント利益は43,691千円（前年同期比34.6%減）となりました。

(金融プラットフォーム事業)

金融プラットフォーム事業におきましては、独立系フィナンシャルアドバイザーの増員等による体制強化に注力いたしました。当第2四半期連結累計期間における金融プラットフォーム事業の売上高は、347,569千円、セグメント利益は83,362千円となりました。

当第2四半期連結会計期間末における財政状態は、次のとおりであります。

(資産)

資産につきましては3,318,143千円となり、前連結会計年度末に比べ181,046千円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が125,352千円、投資有価証券が57,594千円、前払費用が43,988千円、ソフトウェア仮勘定が32,425千円及びソフトウェアが13,512千円増加した一方、売掛金が90,132千円減少したことによるものであります。

(負債)

負債につきましては588,740千円となり、前連結会計年度末に比べ16,968千円減少いたしました。これは主に、未払費用が21,864千円及び賞与引当金が17,760千円増加した一方、買掛金が22,489千円減少したことによるものであります。

(純資産)

純資産につきましては2,729,403千円となり、前連結会計年度末に比べ198,014千円増加いたしました。これは主に、資本金と資本準備金がそれぞれ10,517千円増加したこと及び親会社株主に帰属する四半期純利益147,777千円を計上したことによるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、前連結会計年度末に比べ125,352千円増加し、2,123,134千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果得られた資金は247,930千円(前年同期は256,449千円の獲得)となりました。この主な要因は、税金等調整前四半期純利益297,411千円、売上債権が90,132千円減少、未払費用が22,590千円増加、前払費用が33,087千円増加、法人税等の支払額144,942千円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果支出した資金は122,577千円(前年同期は33,077千円の支出)となりました。この要因は無形固定資産の取得による支出67,492千円及び投資有価証券の取得による支出55,085千円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

該当事項はありません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は16,499千円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 従業員数

連結会社の状況

当第2四半期連結累計期間において、当社グループは業容の拡大に伴い、オンラインメディア事業において9名、ITソリューション事業において4名、金融プラットフォーム事業において5名、全社（共通）セグメントにおいて7名増加しております。

なお、従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む就業人員数であります。

提出会社の状況

当第2四半期累計期間において、当社は業容の拡大に伴い全社（共通）セグメントにおいて7名増加しております。

なお、従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員数であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	9,500,000
計	9,500,000

(注)2021年6月24日開催の定時株主総会において定款の一部変更が行われ、発行可能株式総数は同日より7,000,000株増加し、9,500,000株となっております。

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2021年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2021年11月12日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	2,399,600	2,399,600	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数は100株であります。
計	2,399,600	2,399,600		

(注)提出日現在発行数には、2021年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
2021年8月6日 (注)	7,000	2,399,600	10,517	1,001,746	10,517	981,156

(注)譲渡制限付株式報酬としての新株式の発行による増加であります。

(5) 【大株主の状況】

2021年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
富田 直人	東京都渋谷区	841,600	35.07
株式会社NTI	東京都渋谷区広尾4丁目1-13-1106	200,000	8.34
株式会社日経ビーピー	東京都港区虎ノ門4丁目3-12	140,000	5.84
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC) (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	PETERBOROUGH COURT 133 FLEET STREET LONDON EC4A2BB UNITED KINGDOM (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	63,200	2.63
佐々木 幸弘	東京都世田谷区	54,000	2.25
株式会社日本カストディ銀行(信託E口)	東京都中央区晴海1丁目8番12号	47,100	1.96
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	44,936	1.87
遠藤 俊一	東京都大田区	40,000	1.67
NOMURA PB NOMINEES LIMITED OMNIBUS-MARGIN (CASHPB) (常任代理人 野村證券株式会社)	1 ANGEL LANE, LONDON, EC4R 3AB, UNITED KINGDOM (東京都中央区日本橋1丁目1-13)	38,000	1.58
楽天証券株式会社	東京都港区南青山2丁目6番21号	29,300	1.22
計		1,498,136	62.44

(注) 1. 発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合は、小数点以下第3位を四捨五入しております。

2. 株式会社日本カストディ銀行(信託E口)の所有株式47,100株は株式給付信託(J-ESOP)導入に伴う当社株式であります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2021年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,397,700	23,977	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 1,900		
発行済株式総数	2,399,600		
総株主の議決権		23,977	

(注) 1. 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式88株が含まれております。

2. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、株式給付信託(J-ESOP)の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式47,100株(議決権471個)が含まれております。

【自己株式等】

当社は、株式給付信託(J-ESOP)を導入しており、信託財産として株式会社日本カストディ銀行が当社株式47,100株を保有しております。当該株式につきましては、四半期連結財務諸表においては会計処理基準に基づき自己株式として計上しておりますが、前記「発行済株式」においては、会社法に規定する自己株式に該当せず議決権も留保されているため、「完全議決権株式(その他)」に含めており、「議決権制限株式(自己株式等)」または「完全議決権株式(自己株式等)」には含めておりません。なお、単元未満株式を88株保有しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2021年7月1日から2021年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2021年4月1日から2021年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,997,781	2,123,134
売掛金	500,532	410,399
前払費用	30,141	74,130
その他	61,770	64,168
貸倒引当金	397	289
流動資産合計	2,589,828	2,671,543
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	13,978	13,181
工具、器具及び備品(純額)	8,086	6,674
有形固定資産合計	22,065	19,856
無形固定資産		
ソフトウェア	104,074	117,586
ソフトウェア仮勘定	29,610	62,035
無形固定資産合計	133,684	179,622
投資その他の資産		
投資有価証券	266,558	324,153
関係会社株式	6,600	6,600
従業員に対する長期貸付金	3,300	3,300
繰延税金資産	88,433	81,838
その他	27,137	31,855
貸倒引当金	510	625
投資その他の資産合計	391,519	447,121
固定資産合計	547,269	646,600
資産合計	3,137,097	3,318,143

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	164,250	141,761
未払法人税等	146,837	124,712
未払費用	138,912	160,777
賞与引当金		17,760
その他	143,120	126,108
流動負債合計	593,120	571,119
固定負債		
株式給付引当金	12,588	17,620
固定負債合計	12,588	17,620
負債合計	605,709	588,740
純資産の部		
株主資本		
資本金	991,229	1,001,746
資本剰余金	970,639	981,156
利益剰余金	592,454	740,232
自己株式	40,066	40,066
株主資本合計	2,514,256	2,683,069
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	276	2,561
その他の包括利益累計額合計	276	2,561
非支配株主持分	17,407	43,772
純資産合計	2,531,388	2,729,403
負債純資産合計	3,137,097	3,318,143

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
売上高	1,361,621	1,961,870
売上原価	686,088	960,078
売上総利益	675,532	1,001,792
販売費及び一般管理費	491,130	700,932
営業利益	184,402	300,859
営業外収益		
受取利息	2	1,012
雑収入	149	384
営業外収益合計	151	1,396
営業外費用		
支払利息	43	0
支払手数料		183
投資事業組合運用損		1,581
雑損失	0	
営業外費用合計	43	1,765
経常利益	184,510	300,490
特別損失		
固定資産除却損		3,079
特別損失合計		3,079
税金等調整前四半期純利益	184,510	297,411
法人税、住民税及び事業税	95,722	117,927
法人税等調整額	31,637	5,342
四半期純利益	120,426	174,141
非支配株主に帰属する四半期純利益		26,364
親会社株主に帰属する四半期純利益	120,426	147,777

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	120,426	174,141
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金		2,837
その他の包括利益合計		2,837
四半期包括利益	120,426	176,979
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	120,426	150,615
非支配株主に係る四半期包括利益		26,364

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	184,510	297,411
減価償却費	16,020	20,683
受取利息及び受取配当金	2	1,012
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,216	6
賞与引当金の増減額(は減少)	54,704	17,760
株式給付引当金の増減額(は減少)	1,743	5,032
投資事業組合運用損益(は益)		1,581
支払利息	43	0
固定資産除却損		3,079
のれん償却額	2,365	
株式報酬費用	6,245	8,699
売上債権の増減額(は増加)	20,414	90,132
仕入債務の増減額(は減少)	5,229	22,489
未払費用の増減額(は減少)	46,338	22,590
前払費用の増減額(は増加)	550	33,087
その他	38,172	25,190
小計	333,190	385,199
利息及び配当金の受取額	2	1,012
利息の支払額	34	0
法人税等の支払額	82,966	144,942
法人税等の還付額	6,258	6,662
営業活動によるキャッシュ・フロー	256,449	247,930
投資活動によるキャッシュ・フロー		
無形固定資産の取得による支出	23,177	67,492
投資有価証券の取得による支出		55,085
関係会社株式の取得による支出	6,600	
従業員に対する長期貸付けによる支出	3,300	
投資活動によるキャッシュ・フロー	33,077	122,577
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	14,988	
新株予約権の行使による株式の発行による収入	928,705	
新株予約権の発行による収入	10,519	
財務活動によるキャッシュ・フロー	924,236	
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,147,608	125,352
現金及び現金同等物の期首残高	666,017	1,997,781
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,813,626	2,123,134

【注記事項】

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、オンラインメディア事業の一部サービスについて、従来は、総額で収益を認識しておりましたが、顧客への財又はサービスの提供における役割(本人又は代理人)を判断した結果、純額で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しておりますが、当該期首残高に与える影響はありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高及び売上原価は、それぞれ7,176千円減少しております。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(従業員に対する株式給付信託(J-ESOP))

当社は、株価及び業績向上への従業員の意欲や士気を高めるため、従業員に対して自社の株式を給付するインセンティブプラン「株式給付信託(J-ESOP)」(以下「本制度」といい、本制度に関してみずほ信託銀行株式会社と締結する信託契約に基づいて設定される信託を「本信託」といいます。)を導入しております。

1. 制度の概要

本制度は、予め当社が定めた株式給付規程に基づき、一定の要件を満たした当社の従業員に対し当社株式を給付する仕組みです。

当社は、従業員に対し職位、個人の貢献度等に応じてポイントを付与し、一定の条件により受給権を取得したときに当該付与ポイントに相当する当社株式を給付します。従業員に対し給付する株式については、予め信託設定した金銭により将来分も含め取得し、信託財産として分別管理するものとします。

2. 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額は除く。)により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、当第2四半期連結会計期間末において39,893千円、47,100株であります。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
役員報酬	58,905千円	86,074千円
給与手当	118,749 "	162,396 "
賞与引当金繰入額	81,844 "	71,533 "
株式給付引当金繰入額	1,743 "	5,032 "
法定福利費	34,196 "	41,054 "
貸倒引当金繰入額	1,216 "	6 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
現金及び預金	1,813,626千円	2,123,134千円
現金及び現金同等物	1,813,626千円	2,123,134千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1 配当金支払額

該当事項はありません。

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

当社は、2020年7月15日開催の当社取締役会決議に基づき、2020年7月31日に発行した第三者割当による行使価額修正条項付新株予約権の一部行使により普通株式が278,700株増加いたしました。また、同日開催の当社取締役会決議に基づき譲渡制限付株式を3,700株発行いたしました。この結果、資本金及び資本準備金がそれぞれ474,739千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において、資本金が826,024千円、資本剰余金が805,434千円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1 配当金支払額

該当事項はありません。

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	オンライン メディア事業	ITソリュー ション事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,132,748	228,873	1,361,621		1,361,621
セグメント間の内部 売上高又は振替高					
計	1,132,748	228,873	1,361,621		1,361,621
セグメント利益	412,705	66,762	479,468	295,065	184,402

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	オンライン メディア事業	ITソリュー ション事業	金融プラット フォーム事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,374,196	237,272	347,569	1,959,037	2,832	1,961,870
セグメント間の内部 売上高又は振替高						
計	1,374,196	237,272	347,569	1,959,037	2,832	1,961,870
セグメント利益	480,905	43,691	83,362	607,960	307,100	300,859

(注) 1. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) 外部顧客への売上高2,832千円は、非連結子会社からの経営指導料であります。

(2) セグメント利益の調整額 307,100千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、これまで「その他」に含めておりました「金融プラットフォーム事業」につきまして、金額的重要性が増したため、独立した報告セグメントとして扱うことといたしました。

これにより、当社グループの報告セグメントは、「オンラインメディア事業」、「ITソリューション事業」、「金融プラットフォーム事業」の3区分に変更しており、当第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントに基づき作成したものを記載しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)	合計
	オンライン メディア事 業	ITソ リユーショ ン事業	金融プラッ トフォーム 事業	計		
ITトレンド	974,721			974,721		974,721
ITトレンド EXPO	136,803			136,803		136,803
bizplay	106,644			106,644		106,644
List Finder		198,284		198,284		198,284
コクリボ		38,988		38,988		38,988
金融商品仲介サービス			347,569	347,569		347,569
その他	156,026			156,026	2,832	158,859
顧客との契約から生じ る収益	1,374,196	237,272	347,569	1,959,037	2,832	1,961,870
外部顧客への売上高	1,374,196	237,272	347,569	1,959,037	2,832	1,961,870

(注)「調整額」は、非連結子会社からの経営指導料であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益	60円33銭	62円95銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	120,426	147,777
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	120,426	147,777
普通株式の期中平均株式数(株)	1,996,102	2,347,554
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	59円50銭	62円50銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	27,827	16,919
(うち新株予約権(株))	27,827	16,919
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結 会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 株式給付信託(J-ESOP)制度により信託口が保有する当社株式を、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。(前第2四半期連結累計期間 47,100株 当第2四半期連結累計期間 47,100株)

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年11月12日

株式会社イノベーション
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 清水 栄一

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 南山 智昭

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社イノベーションの2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社イノベーション及び連結子会社の2021年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。
監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。
監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1．上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2．XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。